メディアセンターの主な出来事（平成 22 年度）

メディアセンター本部

1. 新図書館システム（KOSMOS III）の導入

平成 22 年 4 月より新しい図書館システム（KOSMOS III）の全面的な運用を開始した。利用者用検索システムは，電子媒体か紙等の伝統的媒体かを問わず検索することができる KOSMOS をサービスの前面に出し，蔵書に限定した検索システム KEIO-OPAC と併用できる形とした。My Library 機能により予約手続き，返却期限の更新手続きがネットワーク経由で行えるようになり，またシステム移行に際して貸出規則の緩和・平準化を行ったことで，利便性の向上を図ることができた。

稼働初期特有の問題はいくつか発生しているものの，大過なくサービス・業務を行えており安定稼働に向け努力を傾注している。

2. 電子学術書利用実験プロジェクトの開始

メディアセンターが所蔵する日本語学術書の電子化および利用モデルの確立を目的とする「電子学術書利用実験プロジェクト」を立ち上げた（2 ヵ年計画）。出版社からの協力の下で電子書籍化可能なタイトル数を確保し，日吉キャンパスおよび矢上キャンパスを中心に学生モニターを募り利用実験を進めた。学生モニターの数は実験の第 1 期 52 名，第 2 期 38 名に上った。

3. 電子ジャーナル問題への対応策等の検討

電子ジャーナル契約のキャンパス間調整，利用における問題解決など電子資源に関わる課題を検討する会議体として，メディアセンター所長を中心とした e 政策委員会を設置した。

4. 蔵書目録遡及事業の継続

三田メディアセンター所蔵の学部図書を中心に，計 6,507 冊の遡及入力を実施した。

5.「中期計画 2011-2015」の策定と展開

平成 22 年度で区切りを迎える「メディアセンター中期計画 2006-2010」の評価と並行して，若手職員を中心とした将来計画検討ワーキンググループを立ち上げ，次の 5 年の計画に当たる「メディアセンター中期計画 2011-2015」の策定に向けて活動した。

6. 東日本大震災に関する報告

3 月 11 日に発生した東日本大震災による被害については，全メディアセンターとも人に関する被害はなく，また施設に対する被害も軽微であったが，書架から大量の資料が落下する被害に見舞われた（最も被害の大きかった湘南藤沢メディアセンターの復旧は 3 月末であった）。

震災後の大学休校措置に伴い，休館や短縮開館を余儀なくされた。その後，通常開館へと移行していったが，学事日程の変更に伴い臨時の日曜開館などが発生した。変則的な開館日程，開館時間となったため，貸出中の資料に関して利用者の不利益にならないよう配慮した。

また，図書館システムサーバーを設置していた日吉メディアセンターがある地区一帯が震災当日に停電に陥り，またその後も計画停電の区域になった関係で，サーバー停止が頻発することになり，サービス・業務に大きな支障が生じた。

三田メディアセンター

1. Google ブック検索図書館プロジェクトへの取り組み

2009 年 5 月に旧分類図書から開始されたスキャニング作業は，2010 年 5 月から和装本に着手し，約 1 年半をかけた作業は 2010 年 12 月に終了。2011 年 2 月には三田メディアセンターのグーグル作業チームを解散した。今後はメディアセンター本部が中心となって，画像点検，データ管理，活用を行うことになっている。

2. 施設の変更

2011 年 3 月に竣工した南校舎にグループ学習室や大規模なパソコン室が設置されるのに伴い，館内施設の変更を行った。2 階グループ学習室は南閲覧室として，キャレルの一般席の部屋と教員専用閲覧室に模様替えした（開室は 2011/4/1）。1 階オープンエリアの PC は撤去（2010/3/17）し，2011 年度に展示室となる予定。

ほかに，以下の施設の変更も実施した。

- 1F ラウンジ新設（AV コーナーを改装，新聞閲覧コーナーを含むラウンジとなった）
- 旧館 3 階に地図室を新設（事務室の一部を改修，2011/2/26 開室）
- 西閲覧室を全席 PC 利用可とした（2011/2/26～）
- 東閲覧室のドアを窓のある扉に変更（2010/12）

3. 一橋大学附属図書館と合同展示「大江戸商売繁盛記」（11/4-19）・講演会（11/14）開催

一橋大学附属図書館とは，2004 年度から図書館利用のための相互協力協定を締結しているが，その関係を深めるものとして，一橋大学附属図書館を会場

として，標記展示会・講演会を開催した。

実施に際しては，今年度（2011 年度）に新設された展示室の設備，運営を検討するという目的ももたせた 3 名の職員でプロジェクトを組み，取り組んだ。この詳細については本号の記事を参照のこと。

4. 図書館総合展に参加

11 月にパシフィコ横浜で開催された図書館総合展に，展示とフォーラムの両方で参加した。義塾として図書館総合展への展示の参加は初めてであり，テーマは創立 150 年も踏まえたものとして，「福澤諭吉と咸臨丸渡航 150 年を迎えて」とした（11/24–26）。フォーラムでは，義塾所蔵の改造社出版関係資料がマイクロフィルムとして出版されたことを記念した「改造社とその時代―慶應義塾図書館所蔵改造社出版関係資料を手がかりに」シンポジウムで，玉井清法学部教授が講演した（11/25）。

5. カビの発生とその対策

昨年（2010 年）夏の猛暑の影響か，夏ごろから館内各所で資料にカビが発生した。カビの発生は冬まで続き，この除去作業に追われることになった。特に研究室地下書庫の個人文庫については，専門業者に対策を依頼し，約 2 カ月を費やして 5 万冊にカビを含めた除塵作業を実施した。

また施設面での対応も急務であったことから，年度末に間接経費を投入して，対策を講じた。内容は新館地下のダクト清掃，壁掛け型のエアコンに除菌装置追加，旧館除湿器設備，研究室地下書庫調湿ボード設置工事などである。

また，継続的な監視のために，新館地下 3 階をモデルケースとして温室度の計測をはじめとする調査を行っている。

日吉メディアセンター

1. 学生への読書推奨

これまでの「おススメ本」の展示に加え，新たに講演会，学生による「選書ツアー」，生協とのコラボレーションによる「読書マラソンコメント大賞」を実施し，年間貸出冊数は 2 年連続で前年度を上回った。特に今年度は新図書館システムへの移行に合わせ貸出冊数の制限を廃止した影響もあり，対前年度比 28% の冊数増となった。

2. 学生用レファレンス・コレクションの見直し

利用動向を見つつ電子媒体との調整を図ると同時に，3 階にある統計・年鑑類を 1 階に移動して利用の便を図る準備を行った。

3. 日吉図書館内の研究室資料再配置

狭隘化の激しい 4 階から地下書庫へ製本雑誌を移動し，新刊書を入れるスペースを確保した。

4. 新図書館システム（KOSMOS III）

前年度 3 月下旬から稼働開始した新たなシステムに対応して，現場業務を再構築した。同時に新たな業務への順応も順調で，安定的に業務運用ができるまでになった。

5. 施設・設備の改修

（1）レファレンス，学習相談，ITC コンサルタントの 3 機能の合理的提供を目指したレファレンスデスクの改修

（2）2 階小閲覧室の閲覧机の個別ブース化と椅子の刷新

（3）2 階 PC エリアの椅子の刷新

（4）2・3 階グループ学習室のカーペット張り替え，剥げ落ちた手摺りの塗り替え，椅子の刷新

（5）新聞閲覧コーナー横の階段のカーペット張り替え

（6）地下，3 階，4 階のトイレの改修

6. 電子学術書利用実験プロジェクト

プロジェクトの実験現場として，理工学メディアセンターと共に学生を対象に，カスタマイズした電子ブックシステム（BookLooper）と，このために契約したコンテンツによる利用実験を行った。その結果は，アンケートやインタビューで集約し，電子ブックの学術利用に関する，学部生を中心とした利用者が持つ一定の感触や要望を探ることが出来た。

7. 協生館図書室の運用変更

（1）大学院以外所属の塾内教職員の閲覧利用の際の紹介状の提示条件を廃止

（2）日吉図書館からの取り寄せ図書返却の受付開始

8. 東日本大震災による休館

3 月 11 日に発生した東日本大震災により，日吉図書館の 2 階～4 階の書架に配架されている多くの書籍が落下したが，幸い利用者・スタッフ・施設は無事であった。当日は利用者を退避させた後直ちに安全管理のため閉館した。地震による交通機関の混乱のため，スタッフ 3 名が翌日午前 10 時まで残留した。日吉図書館は翌 12 日より臨時休館して復旧に当たり，16 日には 4 階を除いて部分開館した。しかし日吉キャンパスで休校措置がとられたので，17 日より日吉図書館，協生館図書室ともに 3 月 31 日まで休館（室）した。なお，協生館図書室には被害はなく，

地震翌日の12日以降16日まで休館日である日曜を除き平常通り開館した。

9. 語学学習コーナーの展開

従来「多読図書」と「参考図書」で構成されていたコーナーに,「多語種のマガジン類」を追加し，専用書架に置いて配架した。

10. 日吉保存書庫の漏水

前年度より保存書庫への階段に漏水個所が発見されていた。4月に入って保存書庫内の書架と壁面に黴を発見。環境調査の結果書庫内は特段の問題がなかったが，階段については地下水がコンクリートの構造内に入り込んでプール状になっていることが判明し，至急に水の吸い出しと補修工事を実施した。また2月には天井から壁を伝って漏水しているのが発見され，他に2か所の漏水跡も確認。調査の結果，桜並木アプローチからの漏水とわかり，地盤のシールドは大掛かりの工事となるので，書庫内に樋を設けて逃がす工事を行った。

信濃町メディアセンター

1. 利用者ニーズに応えた施設の改修

(1) KOSMOS III リザーブブック機能との連携を視野に,1階閲覧室に教科書コーナーを新設し,運用を開始した（4/5)。

(2) 地下閲覧室の平机をキャレルタイプの机・椅子に入れ替え，電源を設置し，個人利用に快適な環境を整備して閲覧スペース「静かエリア」とした(12/ 27)。

地下会議室（倉庫兼用）をグループ学習室（会議室兼用）へ転用するため，改修工事を実施した（2/11)。グループ学習室の設置はLibQUAL＋®調査および医学部生学習環境改善公聴会での要望に応えたものである。これによって，個人向けスペース「静かエリア」との棲み分けが可能となった。

2. オリエンテーション・授業連携

従来実施している利用者層別のオリエンテーションのほかに,薬学部実習生のライブラリーツアー(6/11, 10/1, 2011/1/11, 3グループ，63名)，MEBIOS (Medical Biologist Support)ガイダンスへの協力(4/21, 11名)，MEBIOSオープンセミナーInside Nature (1/28, 110名)，健康マネジメント研究科「臨床入門」への協力（5/20, 6/10, 18名）を新規に実施した。

また，例年どおりに医学部3年生対象の自主選択科目「医学文献情報1（基礎)」(必須科目，2008年以降実施)(5/6, 2コマ，98名）と,「医学文献情報2（発展)」(選択科目，1996年以降実施)(5/27～6/24, 10コマ，7名)の授業を，成績評価を含めて行い，自主選択科目「EBM入門」では教員からの希望によって2008年以降，授業支援を行っている。

3. 海外図書館との交換研修

カナダのトロント大学Gerstein Science Information Centreから，レファレンス担当図書館員のElena Springallを受け入れた。研修プログラムの作成，他機関見学の随行，プレゼンテーション通訳等を行い，相互理解を深めた（11/28～12/21)。

4. 地区固有の震災対応

年度を越えた事業であるが,NPO法人日本医学図書館協会「震災復興支援文献無料提供活動」の協力館となった。(2011/4/7～)

理工学メディアセンター

1. 学習教育環境整備

(1)「学習支援強化のための3年計画」として2008年度から重点を置いてきた図書館のスペース作りが2011年2月の創想館1階の全面改修をもって終了した。創想館1階をコミュニケーションの場として機能する空間にしたほか，本館2階の椅子を機能性の高いものに交換した。

(2) メディアセンター本部の協力を得て，2010年7月から矢上キャンパス独自の電子ジャーナルへのアクセスがキャンパス外より可能となった。

(3) タイトルページイメージ付きの新着図書リストの配信を2010年11月9日より開始した。

2.「未来先導基金」プロジェクトS-Circleの活動

慶應義塾創立150年記念未来先導基金2010年度採択プログラム「学生スタッフによる図書館における新しいコミュニケーションの場の創生」として，塾生の塾生による相談窓口であるS-Circle（エスサークル）の活動を2010年4月より開始した。10学科22名の学生スタッフが，相談業務に加え，サイエンスカフェや展示等，様々な企画業務を行った。

3. 蔵書構築

(1) 1・2年生用教科書，語学，検定試験，留学，プレゼンテーション関係の資料の増強を行った。

(2) レファレンス資料について，利用度，新版の有無，Web利用の有無などから再評価を行い，利用されない資料等を本館1階から別館に移動した。

4. 修士論文の電子公開

理工学研究科の修士論文は，2010秋学期卒業分より冊子体を中止し，電子媒体のみの収集とした。著者の公開許諾が得られたものは，機関リポジトリ

「ΣStar　矢上キャンパス限定版」にて全文または要旨を公開する。

5. 電子学術書利用実験プロジェクト

メディアセンター本部，日吉メディアセンターと共に募集したモニター学生を対象に，出版社との協力のもと，日本語の学術書を電子書籍化し，実験システム（BookLooper）を介して提供する実験を行った。アンケートやインタビューを通して学生の声を集め，実験に参加している出版社や関連企業に対してフィードバックを行った。実験の結果は，ウェブサイトで公開している。

湘南藤沢メディアセンター

1. 新図書館システム（KOSMOS III）への対応

新図書館システムによって可能となった新サービスを，ガイダンス，授業でのオンデマンドセミナー，データベースウィークス，あるいはホームページ，ツイッター，掲示物によって利用者へ周知し，利用の促進を図った。

2. 学習・研究支援サービス

秋学期授業「インタビュー法」のインタビュー実習のテーマとして，10年後を見据えて湘南藤沢メディアセンターの将来像を策定するにあたって参考とするための学部生の意見を聞かせてほしいという依頼をし，授業レポートの形で意見を聞くことができた。さらには同授業での受講と実習支援により理論と方法を学んだ職員による学部生へのグループインタビューを実施して，参考となる意見収集をした。

看護医療学図書室では，信濃町メディアセンターと調整をして，大学院生，学部生が看護実習や長期休業期間中など大学に来られない時に，依頼した文献複写を自宅まで郵送するお届けサービスを新設，また文献複写到着のスピードアップをはかるため，看護医療学図書室，湘南藤沢メディアセンター，信濃町メディアセンター間で，iFAXの利用を開始した。

3. 環境変化に対応した図書館サービスの提供（利用環境（設備）の改善）

3階北側閲覧席に対面4人用閲覧机（照明/センター・サイドフロスト付）と同2人用閲覧机，合計20人分を新たに購入設置した。そのほか，ICカード読み取り入館ゲートの設置，AVコンサルタントに利用案内ビデオを委託作成してもらった。

4. 蔵書の見直し

利用頻度の少ない図書の除籍作業に着手し，MMLS（マルチメディア・マルチリンガル・スペース）内外の資料再配置を実施した。看護医療学図書室では，「教科書コーナー」，「ぽれぽれ文庫」を新設した。

5. マルチメディア環境の充実

年度末に実施したκ12, ε12, ι12の教室AV環境改修に向けて，仕様をまとめた。なお，年度末でリースアップとなるモーションキャプチャーシステムの後継機を競争的資金による間接経費で購入するにあたり，対応調整をした。そのほか，AVコンサルタントが作成したAVガイドの新バージョンを公開した。

薬学メディアセンター

1. 学習環境・施設設備の充実

前年度末に改装工事を終え，年度初めに開設したITC管轄のPC8台とネットワークプリンタを備えたPCエリアは，キャンパスとしても望まれていた施設で，連日大いに利用されている。グループ学習室にはホワイトボード，プロジェクター，スクリーン等の備品を用意し，目的に応じて学習室にも発表練習にも活用できる部屋とした。

開館から10年を経て耐用年数を超えた，南北入口のブックディテクションシステム2台，ブックチェックユニットを交換し，閲覧椅子の布地の張り替えを行った。

2. 図書コレクション

基本書の充実を目的に，薬学メディアセンター協議会による洋書の見計らい選書を実施し，22点を購入した。また，読まれる生きた蔵書を目指して，利用が見込まれるが古くなった文庫本約230冊の買い替えを行った。

3. 開館時刻の繰り上げ

職員の勤務開始時刻が早まったのに呼応し，平日朝の開館時刻を9：00から8：45に繰り上げ，授業前に調べ物をしたいという学生からの要望に応えることができた（1月～）。

4. 電子リソース利用環境

全塾利用の電子リソースに加え，芝共立地区独自契約のものを対象とした地区所属者に限ってのリモートアクセスサービスを開始した。洋雑誌は，昨年から2年がかりで若干の冊子を残してほぼ全てのタイトルの電子化が完了した。一方，利用の極端に少ない電子ジャーナル6誌を契約打切りとし，予算をバックナンバーの充実に振り向け，他地区と共同でAPS，Nature，NEJM，Lancet等を購入した。

5. 携帯サイトの公開

薬学メディアセンターの携帯サイトを立ち上げ公開した（3月1日）。

6. 震災関連

3月11日に発生した東日本大震災では，発生時の館内には20名程度の学生がいたが，全員無事避難し，書架からの資料の落下も60冊程度に留まった。3月一杯は，大学の休校措置を受けて，閉館時刻の繰り上げあるいは終日閉館の臨時運用となった。

以後，資料落下防止策として，ブックエンドの底面にマグネットシートを貼付し抑止力を強化する等の手当てを行った。